

- ①みんなで協力して錦帯橋模型作り ②福田良彦市長から歓迎のあいさつ ③各班ごとに錦帯橋など市内各地を見学 ④真剣な顔でけん玉に挑戦 ⑤折り紙体験 ⑥カチッと音がして思わず笑顔になった山崩し ⑦こま回しはなかなか難しかったよう ⑧手作りのけん玉をプレゼント ⑨笑顔でハイタッチしてお別れ



2



3



1



9



7



8



6



4



5

8月3日から6日の4日間、世界スカウトジャンボリーの岩国地域プログラムとして、世界各国のスカウト計2160人が岩国市を訪れました。初日となった3日は、12班に分かれた480人のスカウトが訪れ、午前中は小・中学校、高等学校を訪問し、児童や生徒と交流した後、午後から市内の各地を見学しました。各学校では、趣向を凝らしたおもてなしが行われ、折り紙やお手玉、けん玉など日本文化を

世界スカウトジャンボリー 岩国地域プログラム

体験してもらうものや、らかな高原での散策といった地域の特徴を生かしたもありました。最初は緊張気味だった児童・生徒らも次第にスカウトと打ち解け、自分から英語で話しかけたり、身振り手振りで伝えたり、積極的に交流をしていました。午後からスカウトは、錦帯橋や市役所の見学を行ったり、神楽や和太鼓の鑑賞・体験を行ったり、岩国ならではの体験を楽しみました。

関生涯学習課 ☎ 5210

世界のスカウトが岩国へ

市政 PICK-UP



▲完成した錦帯橋の模型をバックに記念撮影

多くの人に岩国の魅力を

7月23日、ポエムピクチャーアーティスト・折り句作家のMIKAKOさんに、市観光大使の委嘱状が交付されました。

MIKAKOさんは、市出身で、詩と絵を組み合わせる「ポエムピクチャー」と一つの文章や詩の中に別の意味を持つ言葉織り込む「折り句」の創作を中心に、現在は東京を拠点に活動しています。

市ではさまざまな分野において全国で活躍している市出身者



▲福田良彦市長（左）から観光大使の名刺と委嘱状を受け取るMIKAKOさん

観光大使委嘱状交付式

や、市にゆかりのある人に観光大使を委嘱しており、MIKAKOさんは29人目になります。

交付式で「いわくに」の文字を使い即興の折り句を披露したMIKAKOさんは「岩国は海や山、温かい人たちが包み込んでくれるような優しい愛情にあふれたまち。自分の活動を通じて岩国の魅力を多くの人に知ってもらえたら」と抱負を語りました。

岡観光振興課 ☎ 5116



▲即興で描いた折り句を手を笑顔のMIKAKOさん

「橋の日」である8月4日、錦帯橋の世界遺産登録を目指す事業の一環として、熊本大学大学院の小林一郎教授を講師に迎え、講演会が開催されました。

小林教授は、各国の世界遺産を数多く見てきた経験を踏まえ「単に橋の長さや世界で何番目といった情報は、心に響かない冷たい価値。錦帯橋に関わる人が、それぞれ独自の視点から橋を読み解けばきつと新しい発見があり、そこから生まれる価値こそ熱く、人を感動させる」と

世界遺産講演会 『「2重ネジレ」と錦帯橋』

話しました。

読み解きの一例として、関ヶ原の合戦以降の大名の考え方を、独自の視点で考察した上で、錦帯橋創建の理由を披露し、その大胆な仮説に会場中が驚きました。

また当時の測量方法に興味があるとの聴講者の声には「自分たちで実際に実験してみればいい。私も一緒にやりますよ」と、橋を読み解こうという姿勢に熱いエールを送りました。

岡錦帯橋課 ☎ 5107

冷たい価値から熱い価値へ



▲錦帯橋は「兩岸を常に繋ぐ平和なまちづくりの象徴」として作られたのだと話す小林教授



▲岩国ユネスコ協会高校部が講演会の運営を補助